

2010年1月1日以降に当センターでパーキンソン症候群の精査のために入
院し、脳脊髄液検査を行った方へ

0. 研究課題名

多系統萎縮症における脳脊髄液と臨床・検査所見の検討

1. 研究の対象

2010年1月1日以降に多系統萎縮症やその他のパーキンソン症候群（多系統萎縮症、パーキンソン病、レビー小体型認知症、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核症候群）の精査のために当センターで入院し、脳脊髄液検査を受けた方を対象としています。

2. 研究の期間

倫理委員会承認後より2028年12月31日まで

3. 研究目的および意義

多系統萎縮症は進行が早い疾患ですが、他のパーキンソン症候群と区別して診断する、客観的で標準的なバイオマーカーが存在しません。脳脊髄液は神経系の感染性・免疫性・変性疾患の診断に用いられ、パーキンソン病及びレビー小体型認知症においては脳脊髄液中のドーパミン・セロトニン代謝産物 HVA, 5-HIAA 濃度が低下することが知られています。多系統萎縮症においてこのようなバイオマーカーがパーキンソン病やその他のパーキンソン症候群とどのように異なるのか、鑑別診断に有用であるのかどうかを調べることを目的としています。

4. 研究の方法

皆様の電子カルテに保管されている情報（年齢、性別、既往歴・合併症、併用薬、病歴、身体所見、臨床診断名、脳脊髄液検査、血液検査、画像検査、生理検査、認知機能検査、病理検査）を収集し、多系統萎縮症の方とそれ以外のパーキンソン症候群の方の特徴等を解析します。また別途 Tokyo Medical Biobank に同意いただき検体のある方は、保管されている検体を用いて追加のバイオマーカーの測定を行います。

5. 研究に用いる試料・情報の種類

- ① 情報：年齢、性別、既往歴・合併症、併用薬、病歴、身体所見、臨床診断名
- ② 検査結果：脳脊髄液検査 (HVA, 5-HIAA など)、血液検査、画像検査、生理検査、認知機能検査、病理検査 (剖検含む)
- ③ 試料 (別途 Tokyo Medical Biobank に同意いただき検体のある方のみ)：
血漿、血清、脳脊髄液
- ④ 試料を用いた測定項目：
ニューロフィラメント軽鎖 (NfL)、グリア線維性酸性タンパク質 (GFAP) など

6. 研究組織

研究責任者

栗原 正典 脳神経内科 医員 研究の統括, データ収集, 解析

研究分担者

嶋崎 亮介 脳神経内科 非常勤医師 データ収集, 解析

関 彩花 脳神経内科 後期研修医 データ収集, 解析, 論文執筆

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なお対応ができない場合がありますことをご了承ください。

研究責任者：

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター

脳神経内科 栗原 正典

電話 03-3964-1141 (平日 9:00~17:00)